

0240

測量艦報告

0741

永	3	保
永	( )	保

軍務局

大和特務艦第一六〇番

昭和八年七月十日 舞鶴

大和特務艦長

海軍大臣 殿

任務報告、件提出

昭和八年度特務艦大和第一次測量任務報告 一通

但自四月一日至六月二十三日

(別紙添)

官房 七月十日

海軍 昭和七年十二月 竹井納

軍務局 8.7.11 課二第

測量 関係

昭和八年度特務艦大和測量任務報告

一 任務

朝鮮測量班及同用器材、舞鶴より清津へ輸送

佐渡至龍飛崎、鐘測

石礁探礁（後より追加）

二 行動概要

四月一日 在役特務艦ト定メラル

四月四日 在役中、臨時増員員（中尉一、下士官兵二十八名）補

充ヨリマス

五日 舞鶴高ヶ嶺須賀、夜後測量器材搭載

（途中下関海峡附近ニ於テ濃霧、角島沖ニ於テ暴風雨ニ遭遇、カ為部崎及油谷灣ニ避泊）

五月十一日 舞鶴入港

朝鮮測量班及測量艇測量器材搭載

五月十八日 清津<sup>ニ</sup>向<sup>ケ</sup>舞鶴<sup>ヲ</sup>発

五月二十日 清津着 朝鮮測量班及全器材ヲ卸ス

五月二十六日 作業地<sup>ニ</sup>向<sup>ケ</sup>清津<sup>ヲ</sup>発

五月二十九日 作業地着

五月六日 新潟着

五月十二日 新潟<sup>ヲ</sup>発作業地着

五月二十日 作業地<sup>ヲ</sup>発新潟着

五月二十八日 新潟<sup>ヲ</sup>発作業地着

六月七日 函館着

六月十三日 函館<sup>ヲ</sup>発作業地<sup>ニ</sup>

六月十四日 作業地着

月二十三日 七尾着

### 三、教育訓練

就従直前七十%余、新乗員ヲ迎ヘタルモ普通艦艇ト  
違ヒ居住ノ不良ト艦動揺ノ大ニシテ悪性ナルトヨリ單  
ナル航海ニモ多大ノ困難ヲ感ゼルモ舞鶴清津ヲ經テ作  
業地到着ノ頃ハ漸ク艦務ニ慣レ作業能率モ著シク  
擧グルニ到レリ

全期間ヲ通ジ舞鶴廻航ノ場合ヲ除キ概ネ天候ニ恵マレ  
任務ノ完全達成ニ努力シ來レルガ此ノ間錘測作業並  
ニ航海運用上ノ實地訓練ハ大ニ行ハレ乗員ノ教育ノ  
効果ハ充分擧グルルモノト認ム

四 測量ニ関スル事項

(一) 當方面海底ハ軟泥深キタメカ、スナツパーレノ作動不確  
 實ナルト多ク研究ノ結果鍾量ヲ増加シ稍々作動良  
 好トナルル如キモ尚確實ヲ缺クトアリ之ニ比シ水路部型  
 採泥器ハ底質ノ採收確實ナリ研究ノ要アルモノト認マシ  
 (二) 第一期測量作業航走時數 四一日九時間

碇泊時數 三四日ニ三九時間

總航程 四九一・八哩

筒 數(鍾測) 四六七箇

測量海面方漚

佐渡至龍飛崎 八七九七・九五方漚

明石礁 四三方漚

海面方漚ニ對スル平均個數

0746

明 佐渡至龍飛埒  
石 磯

二一六  
〇〇四五

五、航海ニ関スル事項

一、佐渡、粟生島、飛島等島嶼附近及向瀬島海礁等

浅堆附近ニテ方向不定、強海潮流ヲ感ジ測点占得並

ニ鐘測作業操艦上著シク困難ヲ感セルコト多シ附近

航海ノ際ハ行船上細心ノ注意ヲ拂フコト肝要ナリトス

二、佐渡新瀉沖附近行動ノ際跡彥山ハ遠望極メテ顯著

ナリ海岡第一四五號一四四號ニ全位置ヲ図載セラルルハ有

益ナリト思考ス

三、佐渡至龍飛崎間ニ五、六月頃常ニ流向約25度流程ノ

涯ノ海流アリ

四、當海面五、六月頃ハ海上極メテ平穩ニシテ油ヲ流シタル如キ日

多キモ常ニ多少ノ濛氣アリ視界良好ノ日少ナシ

殊ニ朝夕ハ殆ド毎日海面ニ濛氣アリ朝晩ノ星測ヲ行ヒ



得ガルト多シ

六、運用ニ関スル事項

一、揚艇料、依ル短艇ノ揚卸シハ多大ノ労カト時間ヲ要ス。ホルチェース並ニ上張ニ麻索ヲ使用シ居ル為、摩擦極ノテ多キヲ以テ鋼線索ニ改ムルヲ要ス

輸送測量艇數ハ四月行動、五隻ヲ以テ最大限ト認ム但シ昨七年  
度、如ク小測量艇十、六昨年度ト同數若クハ八隻迄ノ搭載可能  
ナルベシ

二、左舷主錨ハ昨年度右舷ノ主錨ト同様、五噸ノモノ（以前ハ左錨ニ五噸）  
ト交換サレ揚錨機力量少キ現状ニ於テ左右交互使用ニ差支ナキ様  
ナルノ一点ハ好都合トナルモ尚排水量、揚錨機力量ニ比シ過大ナルヲ  
以テ一噸乃至一、二五噸ノモノニ搭載機ヲナスヲ適當ト認ム

三、主錨揚收用「カットワイヤー」「フインシエワイヤー」ヲ道子クベト甲板ノ眼環ハ

豫備艦時代横須賀工廠ニ請求シ精密ナル検査ヲ實施シタリシモ  
右錨用ノコットワイヤール導滑車取付ケ用眼環附近甲板ニ亀裂ヲ  
生ジ艦内工作ニ依ル大修理ヲ加ヘタルモ再ビ小亀裂ヲ生ズルニ到リ尔後左  
錨ヲ專用スルノ止ムナキ事情ニ立到レリ眼環ノ強度ハ充分ナルモ取付甲  
板ハ外觀ニ異常トキモ實質ハ全般ニ涉リテ老朽セル結果ニシテ應急的  
トスルモ眼環附近相當廣面積ヲ要スルモノト認メ取敢ヌ舞鶴  
工務部ヘ修理請求中ナリ

#### 四) 小錨使用ノ記録

横須賀出港前深海錨泊用トシテ準備セル小錨(ケツカ錨)ハ今期測量  
期間全幅利用スルコトヲ得テ作業能率ノ増進、炭水ノ節約上効果大  
ナリシヲ認ム

作業不可能時普通状態ニ於テ漂流セシカ風潮ノ圧流大ナル状況ニ於  
テ終夜主機械ノ頻繁ナル使用ヲ要シ炭水ノ消費ハ著シク増加シタル

又淺海ニ泊地ヲ求テ錨泊シ企圖センカ速力七節ヲ以テシテハ四五ノ埋  
 ラル地点ニ往復スルノミニテ事終リ又實際ニ錨泊センカ正味ノ作業時間ハ  
 減少シ能率ハ著シク低下セシヲ疑ハ然ルニ錨ノ使用ニ依リ遠距離目標  
 ノ測角ニ依ル測量ノ如キ畫圖目標ノ視認可能ナル状況ニ於テ一極ニ作  
 業ヲ實施スルコトヲ得タリ  
 使用具ノ要目次ノ如シ  
 十字錨〇、ニ六〇觔  
 十六觔(徑)六ツ総リ鋼線索ニ房(一房ニ百米)外ニ錨<sup>ニ</sup>近キ部分ニ鉄  
 鎖四〇米接續  
 尚今後ハ鉄鎖ヲ多ク使用スルコトニ依リ一層効果ノ完全ヲ期スベク  
 引續キ實驗研究セントス(別表ヲ參照)

小錨投入	位	置	水深(米)	使用 錨索長(米)	底質
八月五日	新潟沖	三八度八七分北 一五度五三分東	一一八	二〇〇	S.M

△

×

一七	一六	一五	六一 一四	三〇	三〇	二九	二八	二〇	一七	一五	一三	一二
全 右	向 瀬	明 石 磯	明 石 磯 近	向 瀬	島 海 磯	能 島 南 方 一 二 哩	栗 生 島 北 東 方 一 三 哩	新 潟 沖	鼠 ヶ 蘭 沖	瓢 箆 瀬	新 潟 沖	姫 崎 沖
三八度四四分北 一三八度四〇一分東	三八度四七分北 一三九度四一分東	三九度〇五分北 一三九度四十分東	三九度〇五分北 一三九度四十分東	三八度四八五分北 一三九度四二分東	三八度五八分北 一三九度四二分東	三九度三七分東	三九度三七分東	三八度六二分北 一三九度五分東	三八度三七分北 一三九度四分東	三八度五五分北 一三九度二分東	三八度一八分北 一三九度二分東	三八度一八分北 一三九度二分東
一三六	一四四	七一	一四〇	一三四	一四〇	一二〇	一一〇	一二〇	五九	一三八	一〇七	一〇九
二四〇	二九〇	一四〇	二四〇	二二〇	二四〇	一九〇	一七〇	一九〇	一二〇	二〇〇	一五〇	一五〇
gmm	R	gsh	C.S	R	R	M	S.M	gmm	M	S.M	gmm	gmm

△

一九	一八	向瀬北の 無名礁	三九度二分北 三八度四分東	三九度二分北 三八度四分東	一六三	三四〇	S
全	右				一五〇	三〇〇	不明

記事

△印ハ走鐘シタルモノニシテ共ニ擲鐘トナリシコト及△印ハ海底ガ北着シク傾斜セルコトヲソノ原因ト推定ス

其、他ニ於テハ風速一〇米秒程度ノ風、長濤、高浪ヲ相當ニ受ケタリシモ艦位ノ変化ヲ認めズ

## 七、通信ニ関スル事項

就役前三號二次電池三型十五畧及十型一畧、修理ヲ行ヒ尚横須賀軍需部ヨリ電信符練習機ヲ借用セリ

本艦發電機力量少ナル為二次電池ヲ交流機ノ電源トシアリ而シテ發電機電圧ハ測量ノ都度降下シ電池ノ充電所要時間十時間連續充電シ得ル事極メラ稀ニシテ充電状態不良ノ為五五畧ノ内十畧(六月未現在)故障ヲ生ゼリ長期行動ノ際ハ多数ノ補用二次電池ヲ必要トス

送受信機共ニ何等ノ故障ナク円滑ナル通信繼續シ居レリ

通達状況ハ極メラ良好ナリシモ函館地方ニ於テハ相當強カナル空電ヲ感ジタリ

## 八、機関ニ関スル事項

今次行動中速力七節(回轉數五三馬力三七。)ニテ運轉時數

七八時間ニ分總航程四九二八哩ソノ間終始手入検査ヲ徹底的ニ行フト茲ニ取扱上深甚ノ注意ヲ拂ヒタル為左記小故障アリシモ任務遂行ニ大ナル支障ヲ見ズ概ネ所期ノ目的ヲ達成シ得タリ

四月五日横須賀出動後高压編心磨擦熱ヲ生ゼシモ運轉ニ差支ナシ

四月二十日高压滑弁調圧環故障セシモ約三時間ニシテ復旧

五月二十日主機械加減弁把柄接手止栓折損ス(復旧所要時間一〇。)

六月五日主機械高压筒蹴水嘴脱落ス(復旧所要時間一〇四。)

六月十六日後部主ビルヂョ唧筒唧子取付螺釘折損ス(復旧所要時間一三。)

其ノ他異状ナシ

### 九、廠務衛生ニ関スル事項

四月十七日性病一名舞鶴要港部病院ニ送院

四月十九日舞鶴清津間航海中急性虫様突起炎一名

發生四月二十一日清津入港後直ニ羅南陸軍衛戍病院ニ依  
託入院

五月七日胸膜炎一名横須賀海軍病院ニ送院

五月二十一日胸膜炎一名新奈田陸軍衛戍病院ニ依託入院

五月二十日吳曹長一名今日二十日吳一名共ニ赤痢様ニ症状ニテ  
需診セシヲ以テ直ニ總員健康診斷肉眼的檢便艦内大  
消毒等防疫上ノ期シ五月二十一日新奈田陸  
軍衛戍病院ニ入院セラモ幸ニシラク急性腸炎ト診定セラレ  
五月二十七日全治退院ス

爾余乗員ノ健康状態ハ極メテ良好ニ經過セリ

一、會計給與ニ関スル事項

横須賀出港時機ハ會計年度初頭ナリシヲ以テ出港諸  
準備ニ對シ經理部軍需部等ノ特別ノ援助ヲ要セリ



準備數量金銭ニケ月分被服糧食備品共三ケ月分ヲ限  
度トシ爾後舞鶴ニ於テ積込ム豫定ヲ以テセリ  
ハ金銭會計

出港前ケ月分ノ經費ヲ受領シ給與令第十七條ニ依リ  
ニケ月分ノ俸給ヲ前金渡シナセリ六月分經費ハ吐館ニ於  
テ受領ス

被服

尔後行動ニ要スル分ハ七月上旬舞鶴入港ノ際準備搭載  
ノ豫定ナリ

被服物品古品又ハ貸與品ニシテ將來使用ニ堪エサルモノハ禱  
修用材料トシテ適宜処分方上申セシム認許セラレタリ

糧食

ハ貯糧品ハ横須賀出港前ニケ月分ノ準備搭載セシモ四月

中旬舞鶴入港、際更ニヶ月分ヲ搭載、尔後行動ニ要  
スル分ハ七月上旬舞鶴入港、際約三ヶ月分ヲ準備搭  
載、豫定ナリ

(2) 生糧品ハ各地ニ於テ補給セシモ本艦冷蔵庫庫ハ單扉ニ  
シテ極メテ不完全ナルヲ以テ一日一回開扉トシテ獸魚肉最  
大六日間貯藏シ得ルニ過ギス盛夏ニ至リテハ心細キ状態  
ナルヲ以テ七月舞鶴ニ於テ小出冷蔵庫庫(出来得ル電  
氣冷蔵庫庫)借用致度希望ヲ有ス

(3) 新潟入港、際同地ニ於ケル契約商人ト軍需部間ニ  
鶏肉及生麵麩ノ契約ナキ為不自由ヲ感ゼシヲ以テ  
契約サレ度上肯當局ニ進言セリ特ニ鶏肉ハ他地方  
ニ比シ安價ナルヲ以テ強調シ置キタリ

(二) 需品

尔後行動ニ要スル分ハ舞鶴ニ於テ約三月分ノ準備  
ヲナス豫定

本購買契約

燃料受入ハ順當ニ履行サレタリ各港ニ於ケル清水ハ糧  
食点ト同様軍需部ニ於テ單價契約ヲナスヲ有利ナ  
リト認メラル

(終)

滿 蒙 關 係		保 衛 關 係	
------------------	--	------------------	--

軍務局

大和機密第一之號

海軍大臣殿

大和特務艦長



昭和八年八月二十一日

任務報告一件提出

昭和八年度特務艦大和第二次測量任務報告一通  
 但自六月二十四日至八月九日正午  
 (別紙添)

(終)

海軍



昭和八年度特務艦大和測量任務報告

一任務

二經ヶ岬沖探礁

三隱岐至漁郎端海洋測

四朝鮮東岸北部錘測

五舞水端至對馬海峽海洋測

六行動概要

六月二十九日 作業地ニ向ヶ七尾奈

三十日 作業地着(經ヶ岬沖)

七月七日 舞鶴ニ向ヶ作業地奈

八日 舞鶴着

十四日 作業地ニ向ヶ舞鶴奈

十五日 作業地着海洋測量開始(隱岐至漁郎端海洋測)

七月十九日 測量作業終了清津着

二十六日 清津発作業地着朝鮮東岸北部陸測)

八月一日 作業終了清津着

五日 清津発作業地着海洋測量開始(舞水端至對馬海峡海洋測)

九月 一二。作業終了炭水並鎮海入港、豫定日時、余裕アリシヲ以テ對馬海峡海流測々点ニ向フ

### 三教育訓練

終始測量任務達成シ念トシテ努力シ米レハソノ間概ネ天候ニ恵マレタリトハ云ハ氣温ノ激變並ニ荒天ニ際會レタリト亦屢々ニシテ測量航海保安ニ對スル訓練ハ充分ニ行ハレ任務遂行上遺憾ナキニ到レリ  
精神教育ニ關シテハ纏リ名教育時間ヲ得ルコト極メテ困難ナル事情ニアリタルモ機ヲ得次第之ヲ勵行シ確固名軍人精神ノ保持非常時

並ニ測量任務ノ重大性ニ對スル理解ヲ高メ勤勞ノ向上作業能率増進  
上多大ノ効果アリシヲ認ム

氣候ノ激變ト勤勞ノ繁激ニ備ヘ旺盛ナル体力氣力ヲ維持セシガ爲  
体育ニ意ヲ用ヒ体操ノ勵行ト武技ノ獎勵ニ努メ今日迄著シキ  
兵力ノ減耗ヲ見ザル状態ニアリ

#### 四. 測量ニ關スル事項

一 第一次任務行動レポート今次行動ト比較スルニ隊員ノ測量技術向上セ  
ルニ極メテ顯著ニシテ作業進捗度並ニ採泥器等ノ七失消耗數  
ハ明ニ之ヲ立證セリ

本年就役初頭ニ乘員ノ大部分交代ノ爲測量經驗者殆ンドナク  
教育並作業實施ニ當リ大ナル困難ヲ感ジタリ

以上ノ二點ヨリ考フルニ次年度作業並ニ教育實施上測量艇乘員  
ハ少ナクモ半数残留セシムルヲ必要ナリトス

測量部

本年測量班ヲ編成教育、際操法案及作業指針ヲ作製試用  
セルニ作業實施上極メテ良結果ヲ得タリ

測量ニ関スル諸操式並ニ教範、如キモノヲ制定シ置クヲトハ將來測量  
艦用トシテノミナラス有特一般艦船ニ於テ測量實施ニ於ケル準備ト  
シテ緊要ナルヲト認ム

測量成果

一、經ヶ岬沖探礁

鐘測何數

三二二

測量海面方漚

一〇七二

海面方漚ニ對スル平均何數

〇三

二、朝鮮東岸北部鐘測

鐘測何數

一〇四

測量海面方漚

一九九



海面方深ニ對スル平均何數

〇.五二

山隱岐至澳郎端  
舞木端至對馬海峡  
海洋測

錐測何數

四〇

採水回數

四二一

水色透明度觀測

二八

五航海ニ關スル事項

一 夏期朝鮮東岸行船上ノ注意左ノ如シ

二 夏期(七月末より九月末ニ至ル)距岸五哩附近ニ潮流ニ網多數

入レアリ夜航ノ際ハ五哩以上沖合通過ヲ可トス

狀況 長サ約一〇〇米 概ネ陸岸ニ併行

一〇〇米每位ニ樽又ハ黒塗ブリキ罐ヲ附ケ一端ニ監視船中  
尖部及他ノ一端ニ燈火ヲ點ス

深サ二米乃至一。米

時期日没時前ニ投入日出前ニ揚収ス

心無燈ノ漢船(鮮人)極メテ多クシ

今次任務行動中ニ於ケル航海日時數

二〇日一七、八時

碇泊日時數

二五日一、二、二時

總航程

二四七七、七哩

六、運用ニ關スル事項

カ、錨、錨鎖及錨索ニ關スル事項

出渠後ノ經過日數多キヲ加フルニ後ヒ艦外底ノ塗料剝落セル部分及銅鈹ニマクレヲ生セル部分出系銅鈹ト錨鎖錨索トノ間ニ電流作用ヲ起スニ到レリ錨鎖ノ被害ハ極メテ僅少ナルモ小錨使用ノ際ニ於ケル錨索(鋼線索)ニ對シテハソノ影響相當大ナルモアルヲ念見シタルヲ以テ錨索ノ各所ニ亜鉛鈹ヲ吊下シ

七、通信機關スル事項

七月上旬舞鶴ニ於テ六月以前故障セル三號二次電池三型十器修理セル  
 修理不調トナリ新規受込直チニ初度充電ヲナセリ氣温上昇

			浮標呼称	水深(米)	底質	浮標索長(米)	沈鐘(艇)	有變無
C	B	A						
三四六	二八八	三二一						
			SM	M.S	S.M.G			
			四〇〇	三八〇	四二〇			
			八〇	八〇	七〇			
			ナシ	ナシ	ナシ			

(別図ノ如シ)

鋼線浸蝕防止ニ努メ来レリ  
 採礁作業ニ使用ノ浮標ニ關スル事項  
 經ヶ岬沖採礁作業ニ於テ淺所ヲ発見セル際浮標ヲ投入セル  
 場合三アリ浮標要目構成並ニ成績次ノ如シ  
 浮標ノ構成

スルニ從ヒ電液著シク減シテ月二回乃至三四、補液ヲ要セリ又電液格  
納所ノ扶墜ニシテ給氣排氣設備不完全ナルヲ以テ修理ヲ要ス尚引  
續キ充電状態不良ノ爲ニ號二次電池三型八器ノ故障ヲ生ゼシ  
ガ基板ノ完全ナルモノ五器ハ水洗充電ノ結果復旧セリ

七月二十八日七年式受信機故障ノ爲ニ時間舞鶴トノ連絡不能  
ニ陥リタルモ受信機変壓器共振線輪分解手入ヲナレ復旧セリ  
（永年使用ニ依ル各接觸部摩滅ヲ原因トス）以後多重受信用  
受信機二型ヲ常用トシタル外送受信機共ニ故障ナク円滑ナル通信  
ヲ繼續シ居レリ

通達狀況ハ極メテ良好ナリシモ七月下旬清津地方ニ於テ數日間  
ニ涉リ相當強烈ナル空電ヲ感ジタリ

### 八機関ニ關スル事項

今次行動中速力七ノ即（回轉五三馬力三七。）ニテ運轉時數三八一時

間五分總行程二四七七七哩其ノ間終始手入検査ヲ徹底的ニ行フト  
 共ニ取扱上特ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒタル爲任務遂行上何等支障ヲ  
 見ズ概ネ所期ノ目的ヲ達成シ得タリ  
 故障欠損ナシ

### 九、醫務衛生ニ關スル事項

六月、需診患者僅少ニシテ衛生狀況ハ極メテ良好ニ經過ス

七月、舞鶴ニテ急性氣管支炎一名ヲ送院ス（七月十四日輕快退院目下  
 需診中）

又清津附近測量ニ從事中氣温ノ激變ニ依リ急性咽頭炎及急性  
 腸炎數名發生セシモ孰レモ輕症

右ノ外乗員ノ健康狀態ハ極メテ良好ニ經過シマアリ

尚傳染病豫防ニ關シテハ特ニ遺憾ナキヲ期シ八月七日總員ニ對シ  
 第二回赤痢豫防注射ヲ施行セリ

五、會計經理ニ關スル事項

類ル順當ニ經過レタリ

ハ金錢會計

舞鶴ニ於テ七八ヶ月分ノ經費ヲ受領セリ

ハ物品會計

舞鶴入港中横須賀取港迄ニ要スル物品ヲ準備搭載セリ

生糧品ハ各地ニ於テ神給レタルモ概テ品質良好ニシテ納入成績亦

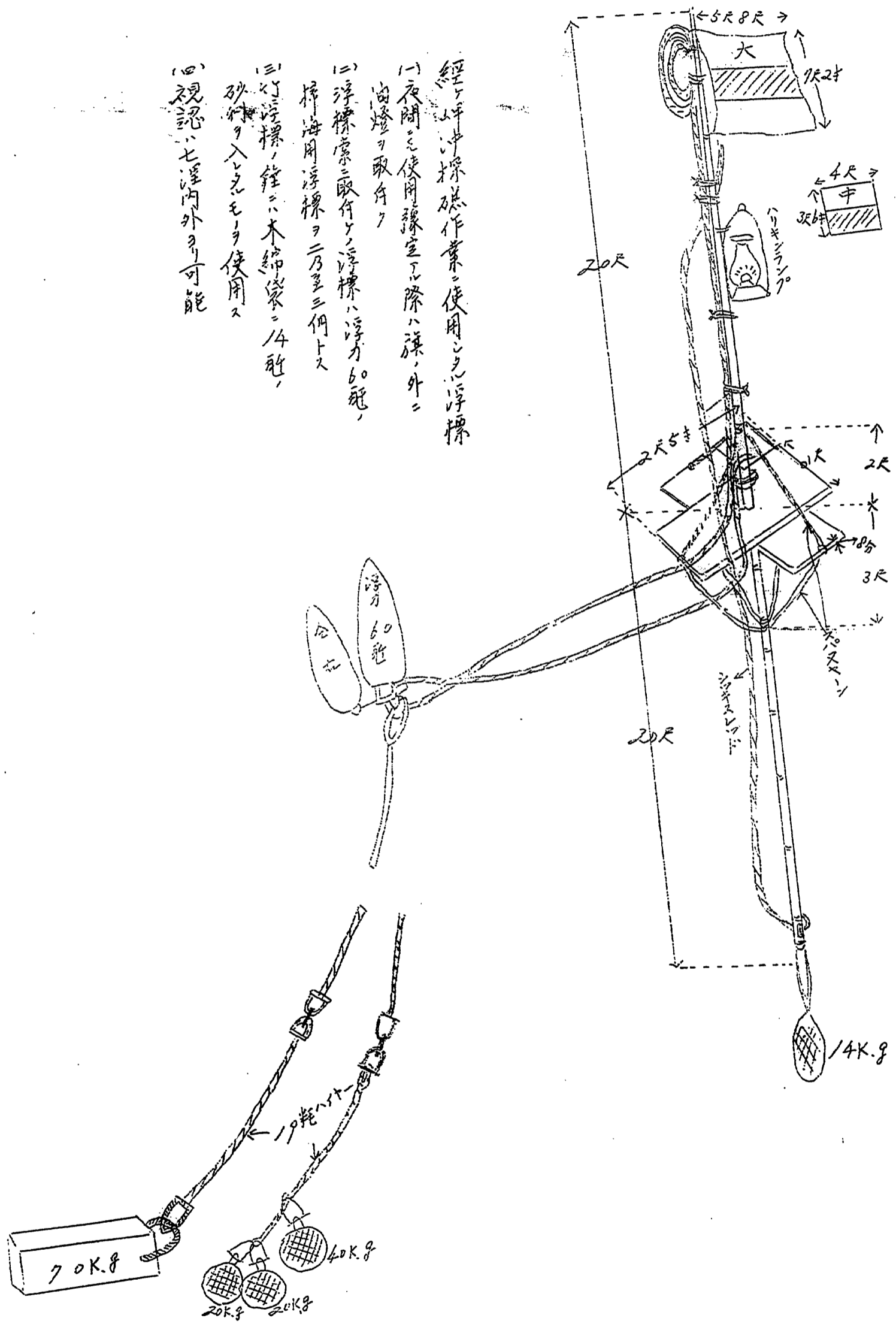
良好ナリ

ハ其他

舞鶴ニ於テ工作部ヨリ小冷蔵庫ヲ借用シ善用シ来レリ

(終)

經ヶ平沖採碇作業ニ使用シテ先浮標  
 一、夜間ニ使用豫定シテ際ハ旗、外ニ  
 油燈ヲ取付ク  
 二、浮標索ニ取付ケル浮標ハ浮力60觔、  
 掃海用浮標ヲ二乃至三何トス  
 三、浮標ノ柱ニハ木綿袋ニ14觔、  
 砂ヲ入レモト使用ス  
 四、視認ハ七洋内外ヨリ可能



0770

軍務局

大和機密第一六號

昭和八年十月五日横須賀

第二課長

第一課長

大和特務艦長

大和特務艦長

大和特務艦長印

海軍

軍務局 第二課 8.11.26

測量関係

任務報告(件)提出

昭和八年年度特務艦大和第三次測量任務報告一通

但八月九日正午至十月三十一日

(別紙添)

(終)



昭和三十八年度特務艦大和測量任務報告(第三卷)

一任務  
(1) 對馬海峽海流測

(2) 朝鮮測量班及公用器材ヲ清津ヨリ舞鶴及横須賀ヲ輸送

二行動概要

八月九日 日本海海洋測ヲ終ヘ朝鮮海峽海流測地点ニ向フ

九日 海流測地点着測量開始

二日 作業地發鎮海ニ向フ

二日 鎮海着

一日 作業地ニ向フ鎮海發(途中荒天ノ為絶影島附近海面ニ

避泊並ニ患者送院ノ為鎮海面舵又)

一日 作業地着(荒天急ニ福岡灣ニ避泊ス)

二五日 作業地發

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三〇日	二五日	一八日	一七日	一三日	六日	五日	二日	九月一日	二八日	二六日
清津着	山寄港	佐世保着	為作業繼續ノ見込ナク佐世保向ケ今迄發	作業地ニ向ケ西戸崎發即日作業地ニ着タルモ荒天	作業地着	作業地發西戸崎着	作業地ニ向ケ西戸崎發	西戸崎着	作業地發	佐世保着
		清津ニ向ケ佐世保發途中患者送院ノ為元							作業地着	作業地ニ向ケ佐世保發即日作業地着

十月六日

測量班乗艦測量艇測量器材搭載舞鶴ニ向ケ  
清津發

九日

舞鶴着測量班退艦測量艇及測量器材一部  
ヲ積卸ス

一五日

横須賀ニ向ケ舞鶴發

二〇日

横須賀着、測量器材ヲ積卸ス

### 三、教育訓練

本期間中要々猛烈ナル荒天ニ出會シタルニ海流測至ニ輸送  
航海任務ヲ完フシ得テ乗員ノ測量保安、航海ニ對スル訓  
練ハ極度ニ積練サレタルモノト認ム

其ノ間努メテ精神教育ノ機會ヲ作り非常時日本ノ認識ヲ高  
ムルト共ニ困苦欠乏ヲ意トセザル美風ノ養成ニ意ヲ用ヒ來レ  
リ、体育普通學ハ行動作業ノ都合上實施ノ機會尠カリシモ

能フ限り之カ實施ニ努力セリ

四、測量ニ関スル事項

對馬海峡海流測ニ作業ノ性質上海上ノ模様潮時ノ關係補給  
休養ノ關係等極メテ複雑ナル狀況アリシモ幸ニ適當ニ時日ヲ  
繰合セ實施シ得タリ

此ノ間來員一同ハ晝夜連續不斷繁忙ナル作業ニ當リ極メテ  
熱心ニ相協力シ任務ノ完成ニ努力セリ

測量成果

鐘測	一五
驗流	二六
採水	九七
水色透明度	一四
海流瓶投入	三八

五、航海ニ関スル事項

(一) 特記スベキ事項ナシ  
 (二) 今次任務行動中ニ於ケル航海日数、碇泊日時数、總航程  
 左記ノ如シ

(イ) 對馬海峡海流測中ニ於ケル

航海日時数 二二日二、九時

碇泊日時数 二四日七、八時

總航程 一四〇六、五哩

(ロ) 清津回航並ニ輸送任務中ニ於ケル

航海日時数 一二日一、八時

碇泊日時数 一三日二、一時

總航程 一四四八、九哩

六、運用ニ関スル事項

特誌スベキ事項ナシ

但シ荒天ニ屢々遭遇セルト小錨ニ依ル琛海投錨繋泊ヲ  
度々實施シ相當ノ自信ヲ得ルニ到レリ

Ⅶ、通信ニ関スル事項

今次行動中送受信機共極メテ良好ニシテ何等故  
障ナク圓滑ナル通信ヲナシ得タリ

Ⅷ、醫務衛生ニ関スル事項

八月上旬ヨリ九月中旬ニ亘リ氣候ノ激変ニ出會セルト作業  
繁激ナリトシト為兵員ノ体重ハ全期間ヲ通ジ最モ減少シ  
外傷患者ノ發生稍多敷ナリシモ秋氣カルト共ニ漸次其ノ數ヲ減ジ  
体重亦増加シ九月下旬ヨリ今日ニ至ル迄衛生狀況ハ極メテ良好  
ニ経過セリ

本期行動中ニ於ケル送院患者左ノ如シ

九會計經理ニ関スル事項

頗ル順當ニ経過シタリ  
 (1) 金銭會計

佐世保ニ於テ九月分ノ舞鶴ニ於テ十月分ノ經費ヲ受領セリ

送院月日	病院名	傷病名	人員
八月十七日	鎌海軍港部病院	急性腸炎	二名
〃十九日	同	熱性症	同
〃二十日	佐世保海軍病院	左肘関節捻挫性 急性痛風性尿道炎兼淋菌性尿道炎 骨節間關節炎	三名
〃	同	急性炎様突起炎	一名
九月十八日	朝鮮京城南道五元山醫院	急性炎様突起炎	二名
〃二十日	陸軍衛生部病院	左全 右	一名
十月九日	舞鶴海軍部病院	左示指複雑骨折	三名

四 物品會計

養糧品

西戸崎に於ては諸員商人の位置、交通等、他ノ關係上不便ヲ感ゼリ、

福岡博多ニ諸員商人ノ設定ヲ希望ス

清津ニ契約諸員商人ナシ現下ノ情勢ヨリシテ海軍艦船ノ出入多シ諸員商人ノ設定ヲ希望ス

其  
他

七月舞鶴寄港ノ際同工作部ヨリ小冷蔵庫ヲ借用有效ニ使用セリ、十月任務終了寄港ノ途次還納セリ

本艦ノ如キ冷蔵庫ノ不完全然モ冷却装置ナキ艦船ニ必需品トシテ供給サレシコトヲ希望ス

(終)



關	得期	20	永
係	期	結	永

軍務局

第一四號

昭和八年二月八日

第二課 海軍大臣 駿橋艦長

月次報告一件提出

昭和八年一月軍艦駒橋月次報告一通  
(別紙添)

(終)

管務課  
二月拾八日

海軍

昭和七年七月横刑納



昭和八年一月軍艦駒橋月次報告

一、測量作業の經過概要

横須賀出港以來概不天候ニ悪レテ観測ヲ續行セリ  
 潮岬東方ニ於テ一晝夜間相當ノ荒天ニ遭ヒシモ何等  
 異状ヲ有ル後佐世保ニ至ル迄順當ニ經過セリ  
 佐世保出港後四五日間ハ天候不良アリシモ爾後晝  
 夜兼行乗員一同元氣旺盛ニ測量ニ從事セシム以テ  
 豫期以上ノ効果ヲ收メ一月末日迄ニ第三十二測点  
 迄ヲ完了セリ

二、炭水消費額及患者一覽表

燃料消費額	重油	二八、〇五 吨
	石炭	七、一五 吨
清水消費額		一、〇五 吨

表 頁



二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	昭和八年 月駒橋行動報告
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	曜	
雨	晴	晴	晴	曇	少 浪	雨	曇	曇	晴	曇	晴	
穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	所 在 動
						横 須 賀 火 番 浮 標						記 事
測量器具材料搭載 機開手入	糧食(野糧)搭載 機開手入	彈火藥、清水搭載 機開手入	休業	艦内大掃除 測量準備 機開手入	休業	測量準備 機開手入	選擇式休業	休業	選擇式休業 (第二期休業開始)	休業	選擇式休業 (第二期休業開始)	

毎  
日

二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木
曇	曇	曇	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ	曇 浪可成アリ
穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩	穩
D 佐世保 六番浮標						(本州南方海面) 測量作業地			横須賀 八番浮標			
炭水補給			船体兵器機関手入			海洋測量			水路部長巡視			石炭搭載、測量準備 (第二期休暇終了)
〇三〇予定作業終了、佐世保に向、普通航海			二〇〇佐世保着 休業			〇九〇作業地、宮横須賀發 海洋測量						





病類別及兵種別				昭和八年一月分軍艦駒橋患者一覽表	
傳染病	性病	外傷	内科的疾病	外科的疾病	病類別
			1		准士官以上
			2		下士官
	2		1		兵
					軍
					属
					測量班
					合計
	2		4		

受療者延数	現員延数
37	4,027
一日平均	一日平均
1.2	39.9
者休者輕者就	者就
延業延業延業	延業
数患数患数患	数患
17	20
合	合
右	右
4,222	4,977

海軍

昭和七年七月 侯利納



8820

精起開		保起	3	20	永
徐		機期	( )	( )	永

軍務局

駒橋機務第一四號ノ四

昭和八年三月二日基隆

第二課 海軍大臣 駒橋艦長

月次報告ノ件提出

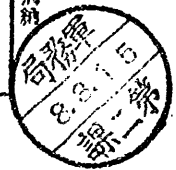
昭和八年二月軍艦駒橋月次報告

(別紙添)

(2)

海軍

昭和七年七月横刊



昭和八年二月軍艦駒橋月次報告

一 測量作業の経過概要

高雄出港後、好天候ニ恵マレタルヲ以テ晝夜兼行ヲ以テ且  
 宋海峽方面ノ海洋測量作業ヲ實施スルヲ得タルモ其後  
 或ハ東海ノ高氣圧性ノ烈風ニ妨ゲラレ或ハ台湾東海面  
 ノ低氣壓性ノ悪天候ニ當サレ作業予定ノ如ク進捗スル  
 ヲ得ザリシモ乗員一同元氣ニ堅忍持久ノ精神ヲ以テ任  
 リ克ク信風期ニ於ケル台湾東方海面ノ測量作業ヲ完  
 全ニ成シ遂ゲルコトヲ得タリ、只台東泊地東方海面ニ  
 於テ當時ノ悪天候ト更ニ悪化セント覺セシ天氣圖ヨリ判  
 断ニテ只一個所ニ幸ジテ採水作業ハ出来タリシモ鍾測  
 並ニ檢流ヲ安具施スルコト能ハザリシハ本行動中最モ遺憾  
 トスル所ナリ

専

置